

魚 群 探 見 飛 行 調 査

宇野守一・柴田光夫・安源之允

1. 趣 旨

常盤近海より三陸近海を北上洄游する魚群について、国、東北5県（茨城、福島、宮城、岩手、青森）及び、北太平洋海区旋網漁業協同組合の三者が共同して継続事業として5月～11月に亘り東北海区で実施したがここでは本県担当分の調査結果のみ報告する。

2. 目 的

本調査は三陸近海の潮目を調査し、その年における暖、寒、両流の消長を知りカツオ、イワシ、マグロ、類等の魚群を探索し東北海区において操業する旋網各船の誘導を第一義とし、併せて漁況、海況の相関性等について調査し、斯業の発展に寄与する目的で本調査を実施した。

3. 方 法

使用機 海洋航空KK
構 造 単発上翼木金混製、バイパートライペーサー 135HP
搭 乗 員：調査員4名
調査月日 (イ) 昭和31年6月26日
 昭和31年7月26日
 (ロ) 昭和32年5月10日
 昭和32年8月30日
調査海域 (イ) 犬吠崎以北より請戸以南、沖合
 (ロ) 犬吠崎以北より40°N以南、沖合

4. 調 査 結 果

その1. (昭和31年)

(1) 調査時の海況状態

6月、黒潮の流れは犬吠崎東沖の142°E、36°N付近よりNNE—NEに伸びて金華山東よりE—ESEに向きを変えて流れているのがみられた。一方近海を南下する親潮系冷水は金華山沿岸部より沿岸沿いに塩屋崎以南に達し、本県北部沿岸にその影響を及ぼしていた。

7月、黒潮の流れは前月と同様、犬吠近海よりNEに張り出しがみられ、一部分岐は本県以南に20°C水帯となつて伸びていた。親潮系水帯は前月同様金華山近海より沿岸沿いに張り出す南下流がみられ、この暖寒両流の接触部にあたる磯崎近海より請戸近海は各所に潮境の形成がみられていた。

(2) 結 果

i) 6月22日、09h—31m 那珂湊市前渡飛行場を離陸、磯崎東より塩屋崎東近海の海域を調査、川尻沖14哩及び22哩付近にトリ群を発見、10h—09m、26哩付近でNNEと14h—33m 60哩海域でENEに張る潮目がみられた。又磯崎東48哩、及び53哩にトリ付鮪中小群が多数発見された。以下イルカ、鮫等については省略した(第1図参照のこと)

ii) 7月26日、午前、午後の2回に亘り調査を実施した。調査海域は午前の部、磯崎東より犬吠崎東海域間と午後磯崎東より請戸東海域を調査したが磯崎近海より犬吠崎近海にかけては141°E線沿いに張り出す潮目がかなり長くみられた他はイルカ、鮫等のみ発見したが対象魚類は探索出来なかつた。午後の調査結果は各

所に NNE~NE に張り出す潮目がみられ塩屋崎 SE/E $\frac{1}{2}$ E 24 哩にトリ付カツオ群、塩屋崎 SE/27 哩にサメ付トリ付カツオ群、川尻 E55 哩潜没カツオ大、中、4 群、川尻 E $\frac{1}{2}$ N55 哩でカツオ大、中群、磯崎 E/N 59 哩カツオ大、小群 3 群、磯崎 E/N51 哩カツオ、中小 2 群とかなりのカツオ群の発見がみられた。

その 2. (昭和 32 年)

(1) 調査時の海況状態

5 月 黒潮の本流は犬吠崎近海より NNE に進路を取って流れがみられ金華山東 100 哩付近にその先端が達していた。一方親潮の流れは金華山近海より南に突込みがみられ、この流れは沿岸沿いに南下しこの影響は本県沿岸部に冷水帯の入りこみがみられた。なお塩屋崎近海にはに ENE に張る顕著な潮境の形成がみられた。

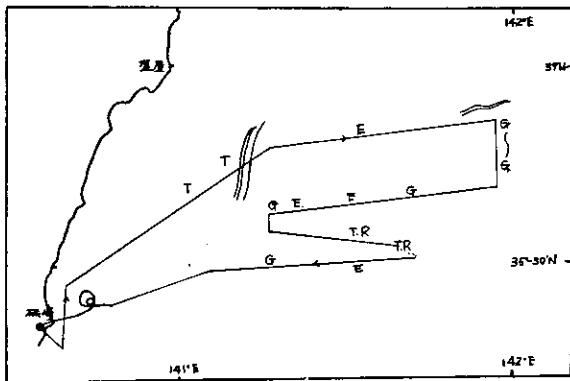
8 月 黒潮の流れは 145°E 線を中心として北に張り出しがみられ 20°C 等温線は 41°N 線をこえて分布し厚岸沿岸より道東沿岸沿いにエリモ近海に南下する親潮がみられ、この流れのためにエリモ近海は複雑な海況を呈していた。従って本月の調査海域は 21°C 台の水帯の分布がみられていた。

(2) 結 果

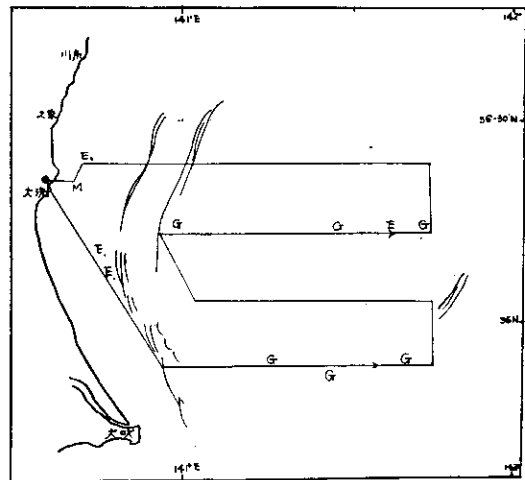
5 月 10 日 08h—22m 離陸川尻より 44°—46° にコースをとり調査を開始、塩屋崎 E/S 55 哩でメジらしき小群 (トリ付) を発見、この北側の四倉沖 17~22 哩付近でトリ群多数発見、塩屋崎 E $\frac{1}{2}$ S 20 哩海域で米巾 1 ケ統の操業中をみて 11h—55m 着陸した。続いて 13h—02m 離陸久慈東沖以南の調査を実施した。久慈東 20 哩で旋網船の (1 ケ統) 操業がみられ、この沖側の (E/S) 49 哩でメジの浮上中群を発見、那珂湊 E $\frac{1}{2}$ S 20 哩付近でサバラしき潜没大群、魚種不明の潜没大群、及びこの沖側の那珂湊 E/S 31 哩でメジらしき潜没群を発見した。なお磯崎 E $\frac{1}{4}$ N 49.5 哩には NNE に伸びる潮境が形成されているのがみられた。

なお別図に示された発見物の符号は次のとおりである。

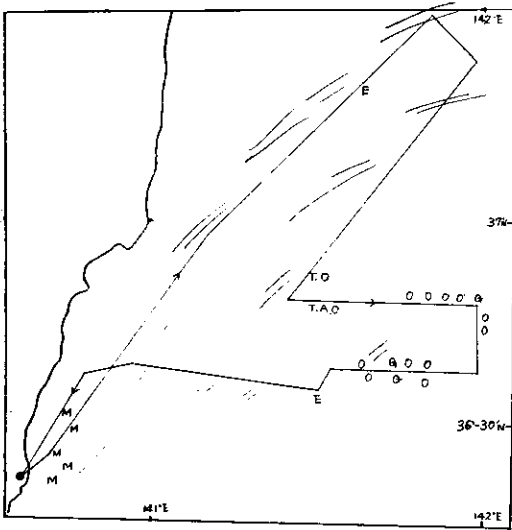
O	カツオ	T	鳥	TE	鳥群、イルカ
G	クジラ	TR	クジラ大鯨	TM	メジ鳥群多し
E	イルカ	XD	魚種不明、潜没大群	MD	メジ潜没群
M	メジ	TAO	鳥多し	SD	サバ潜没群
S	サバ	TO	鳥群	OMD	カツオ、メジ潜没群



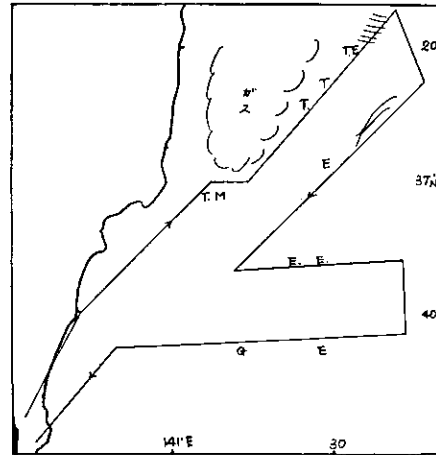
第 1 図 実施月日 昭和 31 年 6 月 20 日
 離陸 08h—22m 着陸 11h—55m
 高度 340m 視界 5'—30'
 風向、風速 SSE 7—10m



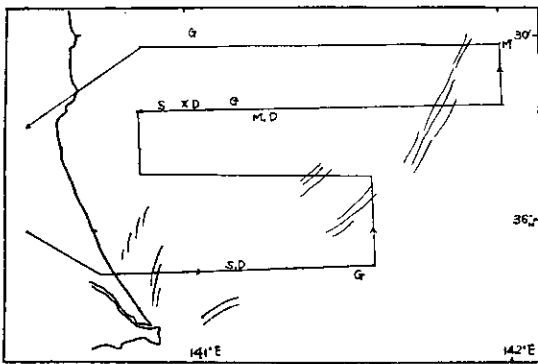
第 2 図 実施月日 昭和 31 年 7 月 26 日
 離陸 09h—14m 着陸 12h—10m
 高度 400m 雲量 3
 雲高 200m 風向、風力 ENE 8'—10'm



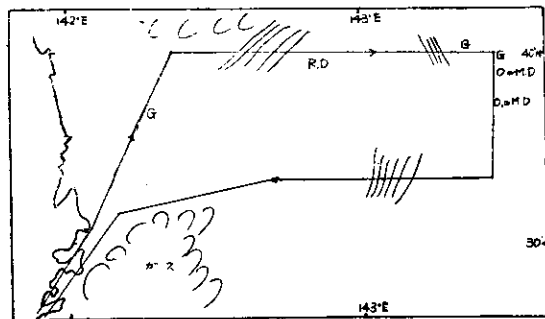
第3図 実施月日 昭和31年7月26日
 離陸 13h—23m 着陸 16—28m
 高度 340m 雲量 8
 風向, 風力 E~ESE 10-17
 7210m



第4図 実施月日 昭和31年7月26日
 離陸 08h—22m 着陸 11h—55m
 高度 340m~300m
 風向, 風速 SSE 7—10m
 視界 5'~30'



第5図 実施月日 昭和32年5月10日
 離陸 13h—02m 着陸 16h—38m
 高度 350m 雲量 6—8
 雲高 500~800 風向, 風力 S/E 18m



第6図 実施月日 昭和32年8月30日
 離陸 13h—44m 着陸 16h—51m
 風向, 風速 SSW 8m 視界 15'—30'
 高度 200~400m